

自然放射線の測定

岐阜県立岐阜北高等学校 澁谷 翔

2025年11月、3年生生理系（118名）を対象に、AとBの授業を行った。

(A) 原子核と放射線の単元で、自然放射線の測定を実施。（11月11日、12日）

- ①ウラン系列をみて、空気中のラドンなどに崩壊することを学ぶ。
- ②生成系AIなどを使用して、相対的に放射線が高くなる場所を調べる。
- ③自然放射線を測定する。

この流れで取り組むと、生徒は、大気の流れが集まる雨樋や換気扇、掃除道具箱のモップやゴミ集積所に注目し、線量が相対的に高くなる場所を調べることができていた。



(B) 核反応の単元では、福島原発事故について触れる。（11月13日）

- ①核反応の過程や原子炉の仕組みを説明する。
- ②福島原発事故のニュースの様子等を見せ、事故の過程を解説する。
- ③福島原発や帰還困難区域、中間貯蔵施設の写真を見せ、社会的な課題であることを説明する。

(B) の授業では、生徒は目を見開いて話を聞く様子であった。授業後、「この研修は大学生になってから私でも参加できますか？」と質問する生徒もいた。